

殺処分、44・8%【完了】

津市内の養豚場、豚熱確認で

豚熱(CSF)の感染が8%に相当する四千四百八頭を殺処分した。確認された津市内の養豚場では十四日、夜通しで豚の殺処分が進められた。十五日午後三時までに延べ三百十九人の県職員と自衛官が作業に当たり、全体の44・

調査チームも十五日に現地入りした。県職員一人を含む五人がウイルスの感染経路や飼養衛生管理の課題を

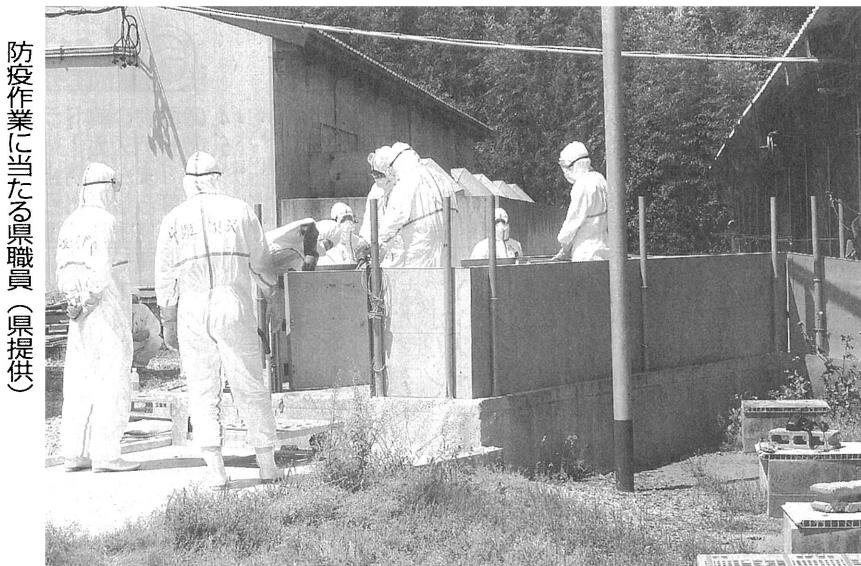
調査する。調査結果はまだまり次第、公表される見通し。防疫作業に当たっては、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、出発前に

県職員の健康状態を確認。現地に向かうバスの乗車定員を制限し、休憩用のネットを定期的に換気するなど感染症対策を実施している。

二十四日までに養豚場の金約一万頭を殺処分する予定。埋却や消毒を含めた防疫措置を三十日までに終える方針。防疫措置の完了までに延べ約五千人の県職員や自衛官、民間業者を投入する見込み。(水野志保)

防疫作業の職員を激励

知事、津市長らと見送り



鈴木英敬知事は十五日、認された津市内の養豚場で防疫作業に当たる県職員二十八人を激励し、前葉泰幸津市長や陸上自衛隊第三十三普通科連隊の向田俊之連隊長らとバスを見送った。鈴木知事は午前十時ごろ、現地対策本部が設置されている県津庁舎(津市桜橋三丁目)で、バスに乗り込む県職員に「コロナ禍の慣れない作業で大変だと思うが、力を合わせて頑張ってきてほしい」と呼び掛けた。

鈴木知事は午前十時ごろ、現地対策本部が設置されている県津庁舎(津市桜橋三丁目)で、バスに乗り込む県職員に「コロナ禍の慣れない作業で大変だと思うが、力を合わせて頑張ってきてほしい」と呼び掛けた。県によると、県職員らは十四日午後十時から交代で



作業を続いている。激励を受けた職員は第四陣。夜間に第三陣と共に作業するため現地へ向かった。このほか、鈴木知事らは庁舎内の現地対策本部も視察。現地対策本部が県職員の配置人数を県庁と調整し、健康状態を確認する役割を担っていることから、現場の状況を県庁に伝えるよう促していた。